

中間評価（ステージゲート審査）結果

1. 研究課題名： 南極氷床コアの気体分析から 100 年スケールで読み解く氷期-間氷期の全球気候変動
2. 研究代表者： 大藪 幾美（情報・システム研究機構 国立極地研究所 助教）
3. 中間評価（ステージゲート審査）コメント

本課題は、過去最大級の自然変動である氷期-間氷期サイクルと急激な気候変動との関連を解明し、過去 100 万年の南北両半球の環境変動を 100 年スケールで復元し、複雑系である気候システムの解明に挑む研究である。フェーズ 1 では、実験室の整備、二酸化炭素測定手法の確立に向けた検討や準備、試料の確保と分析の準備、データ取得、古環境を復元するためのデータ解析や年代構築のための新規性の高い手法構築まで、フェーズ 2 につながる研究が計画どおり着実に進捗していると評価する。フェーズ 2 では、新たな装置開発、測定から年代決定等のデータ解釈をより強化する計画となっており挑戦的な研究計画と評価する。更なる国内の協力関係に加え、フェーズ 1 からのフランスや米国のチームとの国際的な共同研究を活かし、近年、大気中メタン濃度の上昇幅が増加してその要因解明が懸案課題である中、古気候復元に関する知見の進展が今後の気候変動予測の改善に貢献されることを期待する。

以上